

## 年頭のごあいさつ

横河電機健康保険組合  
理事長 松井幹雄



### 新年明けましておめでとうございます。

事業主ならびに被保険者の皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、当健康保険組合の事業運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大で私たちの生活のあり方やスタイルが大きく変わった年となり、3密（密閉・密集・密接）を避けること、手洗いや手指消毒、マスク着用が常識となりました。また、旅行などの移動の制限や消費行動の停滞は、経済に大きな打撃を与える結果となりました。

そのような経済の悪化は健康保険組合財政にも深刻な影響を与えつつあります。宿泊業や飲食サービス業、観光業などの業種の健康保険組合をはじめ、中小事業所の加入が多い総合型の健康保険組合は保険料収入の大幅な減少に見舞われ、春から夏にかけての受診控えによる医療費支出の減少を織り込んでも、その財政状況は今後さらに悪化する懸念があります。また、これまで健康保険組合や上部団体である健康保険組合連合会が訴えてきた、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に入りはじめることにより高齢者医療費の急増が見込まれる、いわゆる「2022年危機」が、1年前倒しされかねない大変厳しい状況にもなっています。

そのように非常に厳しい状況ではありますが、当健康保険組合では、特定健診・特定保健指導をはじめ、人間ドック、生活習慣病健診、がん検診などの疾病予防事業やスポーツクラブ利用補助、チャレンジウォーキングなどの健康維持・増進事業にも引き続き積極的に取り組んでまいりました。さらにコラボヘルスとして事業主と協働で「メタボ予測分析（メタボ領域流入抑制）」と「非メタボ（重症化予防）対策」を実施し、対象者の方にはその方の生活習慣改善に向けた専門職の的確なアドバイスを記載した「アドバイスシート」を送付することで皆さまの健康に対する気づきを促し、生活習慣を見直す支援もしてまいりました。

また、今回のけんぽだよりには、日本健康会議、厚生労働省、経産省が共同で作成している「2020年度版健康スコアリングレポート」を掲載しました。そのレポートの中では、特定健診・特定保健指導の実績のほか、当健保加入者の皆さまの健康状況や生活習慣の状況、また、医療費の発生状況などもグラフ化され、さらにそれらを業態や他健保と比較しているなど、わかりやすくまとめられていますので是非ご一読ください。

当健康保険組合では、今年も皆さまの健康づくり、健康意識向上のための保健事業を事業主と連携しながら積極的に推進してまいります。現在はコロナ禍によりこれまでの生活を変えざるを得ない難しい状況下ではありますが、これまで以上に受診しやすい環境を整えてまいりますので、皆さまも疾病の早期発見のためにも必ず健診を受診し、ご自身やご家族の健康や体調を意識することで、積極的に健康の維持・増進に努めて頂くようお願いすると共に、引き続き健康保険組合の事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、被保険者の皆さまとご家族の方々の益々のご健勝をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和3年 元旦

